

農人橋 のうにんばし ● Nonin-bashi
〈東横堀川〉

江戸時代には公儀橋に指定されていた農人橋。日常の維持管理は橋周辺の町々に課せられ、船が橋に衝突した時の報告と船頭の拘束、橋の破損の報告などが義務付けられていたと伝わる。

『撰津名所図会大成』には「この橋はいにしえより農民が田畑へ行き通うための橋で土橋と同じような形式であった。寛永・正保の頃(1640年頃)までは船場には田畑や芦原などが多くあって、町家は上町に多かったからである。寛永年間、大坂の町家は地子銀(じしぎん)が免除になったため、田畑・芦原の地にも町家が建てられ、急速に繁栄していく。これに伴って橋も高欄擬宝珠(ぎぼし)を持った立派な橋になった。」とある。

明治初期には木橋のままだったが、半ばにやっと鉄柱を持つ橋となった。大正15(1926)年には第一次都市計画事業に基づき、鉄筋コンクリートのアーチ橋となった。

現在の橋は、昭和44(1969)年に中央大通の建設に伴って架け換えられたもので、頭上の阪神高速道路(東大阪線)を挟んで2橋からなっている。

